

【施設見学報告書】京都市立凌風小中学校

<目次>

1. 説明概要.....	1
2. 施設見学写真.....	3
3. 質疑応答.....	5
4. 参加者感想.....	7

【 1. 説明概要 】

説明者：学園長（校長）

※説明資料：別添のとおり

■京都市の教育について

- ・地域による学校づくりが進められてきた背景があり「地域の子どもは地域で育てる」という精神が地域に根付いている
- ・京都市の教育理念「一人ひとりの子どもを徹底的に大切にする」に基づき、近年の子ども達の課題（中1ギャップ・発達の早期化）に対応するため、全ての学校で小中一貫教育に取り組んでいる。

■凌風小中学校設立のポイント

- ・統合前は3小1中の学校区だった。
- ・学校統合に係る要望書が地域から教育委員会へ提出される。
- ・平成24年 施設一体型小中一貫校 凌風学園として開校。(学校種は小学校・中学校)
平成30年 義務教育学校へ移行、「京都市立凌風小中学校」と改称
- ・東九条地域（凌風小中学校のある地域）においても少子化が進んだことから、統合へと進んだ。

■凌風小中学校について

- ・施設一体型の義務教育学校
- ・児童生徒数 令和3年度約700人
- ・教職員数 全体84名
- ・“学園教育目標”や“めざす子ども像”は、別紙「視察 資料」のとおり

- ・学年区分は「4・3・2」
- ・「4・3・2」の各ステージに「ステージマネージャー（学年主任が兼任）」を置き、ステージ内の取組や他のステージとの連携をリードし、子どもたちの9年間の学びをコーディネートしている。
- ・5年生から50分授業 ⇒ 5年生から一部の教科で、教科担任制を導入
- ・特に、小と中をつなぐ第2ステージ「5～7年生」が重要だと考えている。
 - ⇒ つなぐために特に大切にしていること
 - ◎A（あいさつ）K（言葉づかい）B（ベル着）
 - ◎身だしなみ → 標準服の着こなし
 - ⇒ 5年「努力」6年「達成」7年「定着」に向けて、生徒指導を行っている。

■これまでの成果と課題

<成果>

- ・学習指導 ①学習規律の定着 ②学力向上
- ・生徒指導 ①中1ギャップの解消 ②不登校への対応 ③問題行動の減少
 - ④自己有用感の向上 ⑤モデルの存在
- ・教職員の意識 ①価値観の共有 ②9年間の系統性
- ・教職員の力量 ①授業力の向上 ②組織対応力の向上

<課題>

- ・児童、生徒に関する課題
 - ①6年生の活躍の場 ②4年生のリーダーシップ ③小5ギャップ
- ・教職員に関する課題
 - ①9年間の行事や取組、会議等の調整 ②小中の文化の違い→小中籍教職員の意識
 - ③開校6年以降の人事異動 ④校長の負担（対外的な対応）

【 2. 施設見学写真 】



<1F フロアマップ>

建物は5階建て

敷地形状に合わせた建物配置

【普通学級の配置】

1F … 1年

2F … 2,3,4年

3F … 8,9年

4F … 5,6,7年



<1F グラウンド>

近隣に廃校となった学校のグラウンドがあり、現在はそちらも使用中。



<1F 職員室>

職員室からグラウンドが見えるようになっている。
職員室に入ると、来客用カウンターがあり、児童生徒や来客者への対応は、全て来客用カウンターで行う。
(来客用カウンターより中の教職員スペースには入れないようになっている。)



<2F コミュニケーションスペース>

施設内の廊下には、このようなスペースが複数あり



<2F 階段>

←階段は、フロアごとに色分けしており、丸穴をあけることで、反対から誰か来ているかわかるように工夫している。

→時間帯で上り専用等にするすることで、児童生徒の動線を管理している。



<3F 普通教室 前>

←大型モニターの奥に、教員が教材等を収納できる「ティーチャーズポケット」が全普通教室にある。

→後部のロッカーは低学年と高学年で大きさが違う。



<2F 男子トイレ>

→トイレ配置図

※配置図は別の階のもの



<5F 屋上>

右手側はグラウンドが見える。

生垣の奥に柵をつけることで、児童生徒が柵まで近づかないようにしている。

左手側の段差スペースでは合唱の練習等もできるとのこと。

【 3. 質疑応答 】

回答者：学園長（校長）

質問者：懇談会参加者

Q1. 10年前に施設一体型小中一貫校になる前となった後で比べて凌風学園の不登校、いじめ、暴力件数、事故件数の推移はどう変化したか。

また、不登校数等の件数は、施設一体型小中一貫校である凌風学園と京都市内の他の連携型（施設分離型）小中一貫校を比較してどうなのか。

また、まだまだ高校の中退率は高い中、凌風学園9年間を過ごした後の卒業生の中退率のデータについて聞きたい。

A1. 不登校等の数字について、詳細はお示しできないが、色々な問題行動の件数は明らかに統合前より減少した。特に顕著になっていることは保健室への来室者数が10分の1ぐらいに減少していることである。上級生が下級生の見本にならなければという自覚が芽生えてきており、無茶なことが減ってきている。施設一体型小中一貫校だからと言って、いじめや不登校がないことはないし、その都度指導も行っている。

ただし、不登校については、施設一体型小中一貫校としての特徴なのかなと思うことがある。5・6年生の時には、ほとんど学校に来てなくて、7・8年生の時に少しずつ放課後に来れるようになり、9年生の途中から教室に入って、友達と勉強して、最後自分で進路を決めて、みんなと一緒に卒業する、こういう子が毎年2人はいる。ながいこと学校に行ってなければ、教室に行ったとき自分はどんな風に見られるのだろうと不安になると思うが、この地域の子どもは、人に対して温かく接していることが多く、不登校気味の子が登校してきた時、自然に中に入るような雰囲気を作ってくれている。これは小さい時から一緒に過ごしてきたという意識や感覚があるのではないかと思う。9年生になっても、自分の意志で元の場所に戻ろうとしたときには、ちゃんと受け入れてもらえる素地がある。そういう部分がひとつ施設一体型小中一貫校の良さなのかなと思う。

中途退学率の件だが、（学園長が赴任した）これまでの学校では高校に進学後、おもしろくない、思ったのと違うなど様々な理由で中途退学するものがいたが、この学校では中途退学者はほとんどいないことに驚いた。学力的には前いた学校と大きな差はない。何が要因かというところ、これは、学園全体で行っているキャリア形成支援が大きな成果を上げていると思う。8年生までにキャリア教育として、いろんな活動や取り組みを通じて自分の進路に関わるいろんな情報を注入し、9年生では自分の持っている力をどんな道に行けば活かせるのかをじっくり考えることができる。ひと学年80人前後の学校だが、卒業後の進学する学校の種類はバラエティに富んでいる。自分なり

の考えで進学していることが、中途退学率を低くしている要因なのかなと思う。

Q2. 4校が統合したそうだが、統合後の校地がどうなったか知りたい。また、学校の建築費を教えてください。

A2. 1つの旧東和小は、凌風小中学校に隣接しているので、第二グラウンドとして体育等で使用している。旧陶化小、山王小は京都市の管理地となって、地域で使用されている。京都は学区独自のものがあり連合自治会がしっかり組織され、区民運動会や防災訓練等に今でも使用されている。山王小では、校舎をスポーツ団体等の教室として活用されたりしている。建設費であるが、当初は63億の計画であったが、最終的には80億弱になったと思う。京都は埋蔵物が多数あるので、発見されるとその調査等で費用が生じる。また、微量の汚染物が出てきても同様である。

Q3. (小・中学校からの義務教育学校への) 転入生への対応はどうしているのか？

A3. 子どもたちはすぐに順応する。基本は、京都市の教育スタンダードに基づいて教育課程を編成しているので、京都市内からの転入であれば、そんなにサポートは必要ないと考えている。ただし、最近は外国籍の方の転入が増えてきている。日本語指導が必要な子どもの数が増えているので、サポート体制は充実させていきたい。

【 4. 参加者感想 】

参加者の方には、施設見学終了後、以下の2項目についてアンケートを実施しました。アンケートにご協力いただいた参加者の皆様のご意見・ご感想等をご報告します。

(1) 凌風小中学校（施設一体型小中一貫校）の印象や良かった点・課題と感じた点、感想などをご記入ください。

(2) その他、感じたことなどをご自由にご記入ください。

(1)凌風小中学校(施設一体型小中一貫校)の印象や良かった点・課題と感じた点、感想などをご記入ください。

■発足以降10年、教育理念も十分説明を聞き良かった。また、施設も立派で見学してよかった。「地域の活性化を目指し」良い方向性が示せる様話し合えばよいと思った。10年15年先と言わず、出来るだけ早期実現を目指すべきだと考える。課題についても少し聞いたかったが。

■理念がしっかりとしており、それをもとに施設その他もつくられているので、4・3・2制もうまく機能しているのだと思いました。

10年たってもとてもキレイな学校で、キレイを維持するための小さな工夫や新しい施設・設備はやはり心地いいと感じます。(それは一体校でなくとも、各校の建て替えでも得られますが)

図書館が分かれているのも良い。小5～第2ステージで、50分授業で制服、部活など、同じフロアでチャイムや授業時間がまじらないのはよいと思いますが、小5の生の声を聞いてみたい。

全体的にアットホームなかんじ。

支援学級が、1・2Fにあり、職員室近い、外にもすぐ出られるのが良い。

運動場のすみわけもあり、中休みはグラウンド以外にアスレチック遊具があるのが良い。

■設備の整ったすばらしい学校だと思います。ただ、設備にかかる費用が…

交野市では実現しなかったプール。やはり校内にプールは必要ではないか？

生徒数にしては、交野は約1000人。グラウンドが1つ。今回の学校は約690人。グラウンドが2つ。どうしても子どもたちがのびのびと遊べないと思う。

凌風小中学校の教育理念がしっかり確立していたが、交野はどうか？

交野市の先生たちには、小中教育の壁が大きいのではないかと？

京都市では小中の先生たちの交流が行われていて、そんなに抵抗はないと思うが、交野市の先生たちはどうか…

■凌風小中学校の施設の素晴らしさ、校長先生のお話から伺える子ども達のイキイキとした様子、とっても良い学校のように思いました。

しかしながら、学校の先生がたはとても頑張り、子ども達のためにされてこられたのかと思いました。

交野の三中校区で同じようなことができるのか？と不安もありますが、子ども達の凌風小中学校の様子を見ると、施設一体型一貫校に期待したくなりました。

でも、凌風小中学校は地域からの声で小中一貫校に話が進んだような…。三中校区はどうでしょうか？

■校長（学園長）の教育に対する熱意がすばらしかった。

施設（築10年）の管理・手入れがすばらしく、本当に素晴らしい教室環境であった。

4・3・2ステージで低学年～高学年までをうまく教育できるすばらしい運営ができていると思った。

低学年の子供たち、高学年の上級生、一貫教育の良いところを十分発揮しておりすばらしかった。

■素晴らしい教育理念に基づく新たな教育実践、そして施設・設備の充実ぶり、あまりにもすべてが良いと話されていたのが、逆にひっかかった。おそらく、全国からも見学が多々ある先進事例ゆえ、問題点などお聞かせ願えなかったのではないかと懐疑的になった。

一番印象的だったのは、学校と地域とのかかわりという信頼関係がなければ成り立っていかないと話された点だった。

■素晴らしい教育理念のもと、地域独自の歴史やアイデンティティにも配慮した統合を成し遂げられたのに感動しました。

各ステージの子どもたちがいきいきと学校生活を送り、その中でそれぞれの夢を持つ。その夢を形にするためのキャリア形成指導を8～9年でしっかり行う。すばらしすぎるくらい

です。

ハード面での学校校舎、設備も素敵です。きれいに使われています。交野にもこんな学校ができればと思いました。

反面、きれいなのは、おそうじは外注されているのかなと。

「スインドウ」などほかにもランニングコストがかかってくるものも多いのではないのでしょうか。

凌風小中学校は登校が遠い子でも 20 分ぐらいと、校区がコンパクトなのに対し、第三中学校区はずいぶん遠くなる地域の子も多いことが心配する点です。

■ホテルかなあと見違えるようなきれいな設備、こんな環境で勉強できる子供たちは幸せ。

4・3・2 制のシステムもしっかりつながっている。スムーズに上に上がっていきけるように感じた。

「地域の子は地域が育てる」この理念をベースに学校づくりが大切だと感じた。

掲示物がきれいになっていた。学校のポリシーが子どもたちにしっかり浸透していた。

今回の見学会は、星のまち学園の設立準備に大変有意義なものであった。

(2)その他、感じたことなどをご自由にご記入ください。

■すばらしい部分は聞けたが、何かしらの不具合や困ったこともあったはず。すでに改善した部分も。その部分も聞きたかった。それを聞いてこそ対応がねれると思う。

この学校は、1 学年が 2~3 クラスで全体で 30 クラス。全校生徒が 700 人。この規模だからこそ目が行き届くのだと思う。最後に校長先生にお伺いしたが、どこまでも規模を大きくしても、同じようにみれるわけではないと思うと、実際 2 クラスでは多いため、3 クラスにしている学年は担任をつけることで動ける先生が減ってしまう。

この規模を考えずに一貫校だからそのままよいと交野に当てはまることはできないと思う。3 中校区にしてみたら、一貫校にするならば 2 校必要になると思う。

■凌風小中学校は地域の皆さんの意見・同意のもとでできた学校。一中校区の合併はどうだろう？と考えさせられた。

プールに関しては、消火設備として考えれば必要ではないか。

交野での一貫校にはまだまだ問題が山積みかと思いました。

■今回の施設見学は 2 校とも施設一体型ですが、違った小中一貫校の見学も行ってみたいと思います。

今日もメリットな部分がほとんどで、デメリットな部分が聞けませんでした。きっと施設一体型でのデメリットもあると思うので知りたいです。

■地域あつての学校であり、学校あつての地域である。

それを考える三中校区の保護者住民が現在どれほどこの「第三中学校校区における市立小中学校の適正配置に関する懇談会」の存在、活動を知っているのでしょうか。ほとんどの方は御存知ないのではないか。教育行政の務めとして、校区の全地域住民に今後の教育・学校についての意見を問うべきである。まだまだ、交野においては地域と学校が連携して次代の子どもたちの教育を考えているとは言えない状況ではないか。

■交野市も、財政的にしんどいと聞いています。交野市の未来を支えてくれるのは子ども達。その子どもたちが交野を大切に思ってくれること。交野を活性化させるために、下世話な話になりますが、たくさん税金を納めてくれる市民になってくれること。ますます住みたい街になるように、美しい活力のある町になるために教育はほんとに大切だと思います。意味ある投資をしていってほしいです。